2022.12　ひよこ組

児童発達支援ガイドラインに基づく自己評価（2022年度）

児童発達支援事業の支援の質の向上を図るため、「児童発達支援ガイドライン」に基づき2022年11月に実施した自己評価の結果を下記の通り公表します。（アンケート回収率：保護者　95.8%、スタッフ　100%）

1-1．保護者アンケートの結果（まとめ）

	保護者アンケートからの読み取り	改善目標・工夫している点
環境・体制整備	活動環境、職員配置・専門性について、高い評価をいただきました。	基準上配置すべき人員以上の職員配置と発達支援センター内の協力体制により、丁寧な支援につなげるようにしています。一人一人に寄り添った、よりきめ細やかな支援を行うためには、さらなる人員確保と専門性向上、センター職員間の連携が必要だと感じます。引き続き改善に努めます。
適切な支援の提供	支援計画に対しては高い評価をいただきました。ただ「児童発達支援ガイドライン」についての説明が足りない部分もあったようです。活動内容では、通所児以外の子どもとの活動の機会について、ほぼ全員が「いいえ」「わからない」の回答でした。	子どもたちの育ちを専門的に支援する場として、一人一人の課題を客観的に分析し、成長につなげる関わりや活動を行っています。年間計画に沿い、様々な工夫をしながら、行事や各領域に応じた活動をバランスよく取り入れるよう努めています。個々の支援計画立案に際しては、厚生労働省が定めている「児童発達支援ガイドライン」に沿って領域ごとの目標を立てています。なお、昨年度同様、他拠点や地域との直接的な交流の機会を十分に作ることができていません。感染対策とのバランスを取りながら、どのような機会があれば有意義な交流となるのかを検討していきます。
保護者への説明責任等	**保護者同士の連携や学びの機会について、十分ではないと感じられている方が多い結果でした。**	**コロナウイルス感染症対策の観点から、多数で集い、交流する場は企画が難しい状況です。そこで今年度は、従来の保護者向けプログラムに加え、参観や親子行事など小グループでの保護者参加行事、屋外での交流会や環境整備日等を企画し、日常的に多様な形で交流やつながりを深められるよう努めました。加えて、ひよこ組での子どもたちの姿や具体的な関わりのポイントを知る機会としても活用し、家庭での困りごとや悩みに寄り添い、連携した取り組みにつながるようにしました。勉強会というスタイルでは参加のしにくさを感じられる方にとっても、子どもたちの姿やスタッフの関わりを直接見る機会を通して、具体的な学びを得ることにつながったのではないかと感じます。また、保護者の方同士で悩みを共有したり情報交換をしたりする場にもなりました。** **ただ、日常的に気軽に話をしたりつながったりする機会、学びの機会はまだ十分ではありません。今後も保護者の方のニーズに沿ったものを、工夫しながら企画していきたいと思います。**
非常時等の対応	高い評価をいただきました。	避難訓練については実施後に報告することで、保護者の方に周知しました。
満足度	「いいえ」の回答はなく高い評価をいただきました。一方で、昨年度同様「どちらとも言えない」「わからない」の回答も少数見られます。日によってお子さんに行きしぶり等が見られると不安を感じられることと思います。加えて、ひよこ組では、子どもの成長を促す場として背中を押したり経験を広げたりする働きかけもあるため、必ずしも楽しい場面だけではないこと、本当に子ども自身が楽しいと思っているのかわからないこと、子どもたちの集団生活の様子を毎日直接見られないことも背景にあると感じます。	子どもたちにとって、様々な葛藤場面があっても、毎日安心して、笑顔で、楽しみに通える場になるよう、引き続き努力していきたいと思います。また、保護者の方とも、思いを共有しながら子どもたち一人一人の成長を一緒に見守り、喜び合える関係を大切にしたいと思います。 今年度は、日々のグループ活動の報告は玄関先のボードで行うスタイルにしました。その分、お子さんの様子の共有や困りごと等の相談などについて、直接お話しする時間をできるだけ多く作ることに努めました。しかし、全ての方に対して毎日丁寧にお話しする時間を作ることが難しく、十分な対応ができなかったり、コミュニケーション不足だったりした部分もあると感じています。 今後も様々な機会を通じて保護者の方のご意見を伺いながら業務改善に努め、子どもたちにとっても保護者の方にとっても満足度の高い、充実したひよこ組を目指していきます。